



灰釉瓶子 高さ 32・胴径 23cm

田村文宏展 古瀬戸
二〇一九年九月二十八日(土)～十月六日(日)
作家在廊日 九月二十八日(土)



灰釉印花文三足香炉 高さ 9・径 12cm



灰釉魚波文瓶子 高さ 34・胴径 26cm

料金後納
ゆうメール



灰釉狛犬(阿) 高さ26・幅12・奥行14cm



灰釉印花文瓶子 高さ25・胴径16cm



鉄釉花文広口壺 高さ25・胴径22cm

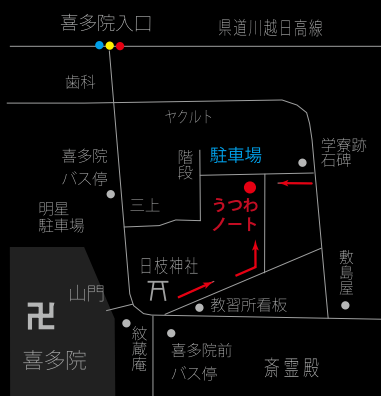
田村文宏展 古瀬戸

二〇一九年九月二十八日(土)～十月六日(日)

十一時～十八時

作家在廊日

九月二十八日(土)



ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715
MAIL utsuwanote@gmail.com

電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]
車：ギャラリー専用駐車場3台分有

愛知県岡崎市の田村文宏さん。2011、2013、2015年以來久しぶりの個展です。過去三回の展示会では東南アジアの古陶器をテーマに開催してきましたが、今回は「古瀬戸(こせと)」を主に据えた新たな取り組みをご覧ください。日本六古窯の中でも瀬戸は施釉陶器をいち早く生産した伝統ある窯業地です。愛知県猿投窯の延長上にあり、中国南宋から伝わった技術によって施釉陶器を作り、鎌倉時代から室町末期まで、中世の焼き物をリードする中核の地でした。外形的な特徴的なのは、緑色を帯びた灰釉と茶褐色の鉄釉を施し、四耳壺・瓶子・片口・小皿にはじまり、香炉・水注のほか仏器も作られました。器面には、印花文や画花文などの装飾がみられます。民具中心の窯業地に比べ、古瀬戸は武士階級を中心とした上流社会に庇護され、特権的な立ち位置にあった事が、当時の器種を生み出しました。田村さんがこれに取り組むのは、生まれ育った地域に近いこと、瀬戸の窯業学校出身であること、東南アジアの焼き物との類似性(灰釉・鉄釉、中国陶磁の影響)、さらには近隣の古窯跡の調査や瀬戸の原料の使用など、陶芸家として独立当初から「古瀬戸」は必然であり、まさに今回、満を持しての発表となる訳です。当時の武家社会と繋がる峻厳とした様式美、歴史を経て「せともの」として認識するに至った食器の奥行の深さなど、今展を通して目にしておいただければ幸いです。店主

田村文宏プロフィール

1978年 愛知県岡崎市生まれ

2000年 東南アジア・インドへ遊学

2004年 瀬戸窯業高等学校陶芸専攻科卒業

2005年と06年 ホンジュラス共和国にて窯業サポート

2010年と12年と14年 カンボジアにて窯造りの手伝い

2019年 現在、愛知県岡崎市で制作